



地方根元記

73  
3288  
5 ↓

9

















































按書に古く年貢の租額より少くとも一石以上は田の多し相  
多し年貢より少くとも一石以上は田の多し相  
之租は田の多し相

甲曰く文田畑の言ふはんも相多し相  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相

一 上田より下

付租三石

付租三石 但し及之百石

付租三石 但し及之百石

付租三石

付租三石

右の三斗は租三斗は是れ七斗五分七厘及人三斗五分七厘

相て改定方々を以て種租三斗又把一農人代四斗五分七厘  
租三斗は是れ五斗五分七厘及人三斗五分七厘  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相

付九斗五分

三斗

付六斗五分

百石以上

右の田畑より九斗五分七厘及人三斗五分七厘

一 地方官同士の言ふ及之百石以上は田の多し相  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相

按書に古く年貢の租額より少くとも一石以上は田の多し相  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相  
又曰く年貢の言ふはんも相多し相











記すに板敷も是より是と考ふるに古より山守而り奥山に海濱も七寺あり  
何處に村も我奥山より是の如く是の如く是の如く是の如く是の如く  
奥山より及多海濱に是の如く

一 川流附多村ありて川流大なるは向し村多し川流附多村ありて  
村ありて種楊野系地河系付あり地流の板敷は向し村ありて  
地ありて付あり地あり地あり地あり地あり地あり地あり地あり  
向し田池あり地あり地あり地あり地あり地あり地あり地あり  
付地あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり

抄書川流附多村ありて川流大なるは向し村多し川流附多村ありて  
附多村ありて川流大なるは向し村多し川流附多村ありて  
付地あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり  
付地あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり

不用し由取及り地ハ中央に地ハ限りて半一概に地ハ限りて  
付地あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり付あり

一 種楊野系山林ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
不之也又六年貢ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
先不説文説板敷ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
一 而好持山林種楊野系ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
山流野系ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
一 在り奥山に種楊野系ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて

取上田池一

一 取上田池ありて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて  
地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて地ハ限りて











右ノ村度代地... 書... 此...

何月... 誰...

右ノ高村... 此...

右ノ通...

古今租税之事

一 年貢... 秋種... 夏...

右ノ上... 大切...

制度通云 本朝之制田有租多有庸戸有調租唐



調ノ法專唐人法ニ據ル租ト云ハ年貢ノ事也  
庸ト云ハ夫役也此ニツハ布帛ヲイタス何セ  
唐ノ法也コトクニシテ損益アリ  
租ノ事令ニ云段租稻ニ束ニ把町租稻二十二束  
義解云田賦為租也又曰段地獲稻五十束稻眷  
得不五升也昂於町者須得五百束也ト此積ニテ  
ハ田地三百六十坪一段ノトコロヨリ米ノ充  
事五十束其内ヲ一束ニ把年貢上ルナリ一町  
場又順之又是ヲ米ニスル則ハ稻一束ヲ眷テ  
米五升ヲ得ル一段五十束ニテハ二石五斗也  
其内ヲ一斗一升年貢ニ替ル町ノ上ニハ二十五  
石ノ内一石一斗取ル也然ルニ二十五分ノ一ヲ祝

之テ少オモシ  
唐ノ時ニハ一男一人ニ田一頃ワタシテ粟  
二斛稻二斛ヲ出ス是ニ順ニテ輕重アリ  
文武天皇慶雲三年九月丙辰遣使七道始定田  
町十五束反雙役丁右ハ續日本記ニ見タリ拾  
菽ニ其時勅書ノ略ヲ奉テ云宜段別亮租稻一  
束五把ト同コトナリ然ハ大室ノ時分ヲ撰ハ  
ル、ニハ一町ニ一斛一斗ヲ出ス所ヨリ此時  
減少ニテ七斗五升ニ定メテ取ラレト見ユ  
夕リ拾菽ニ段別ニ亮租トアレハマシテ取様  
ニキコユル氏續紀ノ通ニテハ令ノ定メヨリ  
減少シテ取ル事ナリ然レハ三十三内ヲ九十  
取シヨリモカク町ノ租五百束ノ内ヲ九十



東取時ハ三十三分ニテマ夕五束アマルナリ

弘仁式云止田一段地子十束中田一段八束下  
田一段六束下々田一段三束拾苾云租地子雖  
出一統格式之時租者數少地子ハ數多ク地  
子ハ租ト格別ナリ

本朝ノ古法天下ノ百姓歳廿一日リ六十迄ノ  
内ヲ正トシテ其間四十歳八定リテ一年ニ夫  
役十日使ト立スルモノナリ何事ニテモ其身  
ヲ夫ニ使トキハ其通若夫役ニ使ハサレハ其  
代ニ布ヲ取是ヲ庸布ト云一人前ニ一日二尺  
六寸ト立十日ニテ二丈六尺一反ト取更也又

十日正役ノ外加役三十日ニ見時租並ニ調ト  
モニ是ヲ免ス但加役三十日ニシテサレハ一  
人前ノ租調ノ三十二ワケ其一分ヲ一日トシ  
テ加役ノ日業ヲ算用シテ是ヲユルス上ニ所  
謂免是ナリ此折ノ字モ又折俸惣別正役加  
役ニ通ヲ一人手前一年ヲ内ニ夫役四十日過  
ス又次丁ハ二人合テ正丁一人ノ役ヲスル也  
次丁ト云ハ老人六十以上ノ者又ハ病人ナト  
ヲ云令ニ云九老殘並為次丁トハ是ナリ  
唐ノ時ニハ正役歳ニ二十日壬午年ニハ二日ヲ加  
上庸布日ニ二尺加役ニ通テ五十日ト定メ十  
五ニテ租ヲユルニ三十日ニテ租調氏ニユル  
スト朝ノ法是ニヨリテ損益有簡ニシテ寛ニ



既ニ上ニ詳ナリ

文武天皇慶雲三年十二月庚寅詔制下七條事  
其五日唯令正下歲役庸布二丈六尺當欲輕歲  
役之庸息又民之並冥減半當當此時ニ二丈六  
尺ノ庸布ノ減少ニテ半分ニセラル、ト見タ  
リ日數ノ事ハ令ニ替亥ハナキナルヘシ  
調ノ事令去九調絹絶綿布並隨郷士所書正丁  
一人絹絶八尺五寸六丁成匹長五丈一尺廣二  
尺二寸羨濃絶六尺五寸八丁成匹長五丈二尺  
廣同絹絶絲八兩綿一升布二丈六尺並ニ丁成  
幼屯端長五丈二尺廣二尺四寸其絮阿布四丁  
成端長五丈二尺廣二尺八寸

右ノ訣ハ本朝ノ古法天下ノ百姓二十一ヨ  
リ六十迄正丁ノ分ニハ年貢庸役ノ外ニ絹ワ  
タイト布ホヲ所々ノ出產ノ品ニヨリテ取亥  
也是ヲ調ト云絹アケレハ絶一人前ニ八尺五  
寸宛イタニテ六人ニテ一匹ヲ成就ス五丈一  
尺ナリ

羨濃絶六尺テ五丈二尺一匹ヲ成糸ナレハ一  
人前一升ニテ二升一屯ヲ成布ナレハ一人前  
ニ丈六尺ニテ二丁ニテ五丈二尺一端ヲ成テ  
又次丁ハ二人テ正丁一人ニ準ス中男ハ四  
人ニテ正丁一人ニ準ス中男ト云ハ十六ヨリ  
二十迄ノ者也此外又雜物ト云モノアリテ鉄  
鹽麩豎魚紫菜海藻等ノ類正丁一人ヨリ出ス



品有又調ノ副物ト云フ紫茜木綿漆黃連ホラ  
出ス品々有是ヲ合セテトモニ調ト云其品目  
ノ詳ナレ事ハ令ニ具也爰ニアラハサス  
惣而調庸ノ物毎年八月中旬ニ其所々ニヨリ  
起輸ニテ近國ハ十月晦日中國十一月卅日遠  
國ハ十二月卅日迄ニ大藏省ヘヲサムルナリ  
但調ノ糸八百姓ノ手前ヨリハ蚕事ヲハリテ  
昂輸シ七月卅日以前ニ省エヲ治ナリ  
調ノ事ハ前論スル家別ノ納年貢ナリ云故是  
ヲ戸調ト云リ然レヲニナミ家別ニイタスニ  
アラス戸ニ課戸不課戸ト云フ爰在テ正丁以  
上課口アルヲ課戸トシナキヲ不課戸トス然

レハ調ハ課戸斗リ出スト見タリ  
令云戸内有課口者為課戸無課口者為不課戸  
義解云不課口謂皇親及八位以上男年十六以  
下并蔭子者廢疾篤疾妻妾女家人奴押唐令文  
本朝令ト全ク同事也是ハ歷々ノ人病人女下  
人ホヲ課セサルニヨリテ是ヲ不課口ト云此  
外正丁ノ令ヲ課口ト云フ課口ハナリヨク課  
物ヲ出スナリ  
貢物ノ事中國ニテハ賦稅ノ外ニ有島貢ニ諸  
別ニノ貢トシルサレ唐ニテモ其通ト見タリ  
本朝ニアリテ國々ノ貢物ヲ直ニ調ノ内ヘイ  
シテ租庸調ノ外ニ別ニ貢ノ名ナレ其内雜物  
ト云則ハ鹽鉄魚類等ヲ共走リノ教程出セハ







現年其年七十七年今之百好不出奴得しむる  
又三対人其年八拾五拾五也其年一七拾五也

- 一 支改右位は 三の戸 六の戸
- 一 丸丸右位は 五の戸 四の戸
- 一 大納言は 八の戸 五の戸
- 一 一右位は 四の戸
- 一 二右位は 六の戸 五の戸
- 一 三右位は 四の戸 八の戸
- 一 四右位は 五の戸 六の戸
- 一 五右位は 五の戸 五の戸
- 一 六右位は 五の戸 五の戸
- 一 七右位は 五の戸 五の戸
- 一 八右位は 五の戸 五の戸
- 一 九右位は 五の戸 五の戸
- 一 十右位は 五の戸 五の戸

- 一 一右位は 五の戸 五の戸
- 一 二右位は 五の戸 五の戸
- 一 三右位は 五の戸 五の戸
- 一 四右位は 五の戸 五の戸
- 一 五右位は 五の戸 五の戸
- 一 六右位は 五の戸 五の戸
- 一 七右位は 五の戸 五の戸
- 一 八右位は 五の戸 五の戸
- 一 九右位は 五の戸 五の戸
- 一 十右位は 五の戸 五の戸

叶節 支改てあてははし

按書云制家多下川地性年更なる年代家なる地  
今も其地は凡そ人の子は古に都りて其地を  
かゝるるは是は又古て好まらば其地を

一 餘録云中古より兵農分り地頭四方百姓亦有租税  
り而然其地頭四方内一方ハ朝家ノ租税ニテ此



人祿甚外ノ圃用ヲ足ス

抄書云元隆中平治の上りて法保元以後廢從一由が後花園  
地以出守より法保年直に法保大子なる今世也云云民と云  
成守國也云云云云法保方制して朝家の祿税も志しくなる  
地も云云一極六きまきるは概は似る下朝解中叙  
舟の操る海東往來記ノ 對國國の御り云云

五年踏驗換實收税取之方之一又之方其一輪于  
二島主自田其一一云

是と見ると毎年年檢見ると其を報し内と云フ別云云と云  
二分の百州と云云又と云別云云と云云と云云と云云と云  
云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云  
多分は云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云  
地云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と  
云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云

平云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と  
極云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と  
云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云  
地云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と

一將軍家譜 泉信云文極四年又下九條法制于諸兵  
之田文下賦ハ 税三方二者地頭取之三方一者耕民  
可有之慎莫使田双就荒無也

抄書云秀吉之法也一統子ありしは地頭云云一而州三方云  
後云云其ま千抄云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云

一 事毎抄書云何々制云方云云四方百州云二方地云云  
知し法と云云と云云と云云と云云と云云と云云と云云と



あつたところの川を八分の一にして  
しつと年々其の川が干涸びた  
せきをたはるるにきつた  
中田のふりてはるるに  
八年百此れより六部三物とす

拙手は時同のとき世に三方地  
三方地は三方地  
中田十の内地  
此三方の割  
石門の地  
之割のとき

中田再按  
馬毛地  
此田を  
此田を

一

地方同書曰  
拙手は時同のとき世に三方地  
三方地は三方地  
中田十の内地  
此三方の割  
石門の地  
之割のとき

拙手は時同のとき世に三方地  
三方地は三方地  
中田十の内地  
此三方の割  
石門の地  
之割のとき











事は花も是とは引取れぬ所の幸も吹され一毛也  
し事とせしりよりし花のくさる事此の毛指して一村  
書を起し積る

平田根元其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
根元其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也

又田原元七其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也

又田原元七其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也

此の御書のよりけり也

又田原元七其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也

又田原元七其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也

又田原元七其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也

又田原元七其の御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也  
又御書のよりけり也又御書よりけり也











井田和解之事

一 吏和漢氏ニ民恒ノ産業ナキモ冷ハ飢寒ニ苦  
 一 常ノ心モ憂事ヲナスヘシ故ニ井田ヲ  
 玉フメ仕政ヲ行ヒ年貢ヲ程能取テ上ニ畜臣  
 ナク下ニ遊族ナク國ニ荒國ナク政ニ苛制ナ  
 ク國々ノ上地ニ應ニ掾熟シテ民教セサルヘ  
 キカ  
 一 復ノ代ニハ洪水ノミシテ耕作スヘキ田地少  
 之故ニ一夫五十畝與テ別ニ公田モナク其内  
 ヲリ五畝ノ入トテ十分一取レリ末世ニ至テ  
 貢法ヲ用ニ數歲ノ中ヲ扶定メ日本ノ定免ト  
 云如ク取ニ程ニ豊年ニハ民モヨケレ氏凶年

今公田ノ入レハ一夫五十畝ノ中ニ一畝ノ公田モナク其内  
 五畝ノ入トテ十分一取レリ末世ニ至テ  
 貢法ヲ用ニ數歲ノ中ヲ扶定メ日本ノ定免ト  
 云如ク取ニ程ニ豊年ニハ民モヨケレ氏凶年



二ハ迷惑スル也田地少キ故配當モ少ク取モ  
強シ夫ヲ後世日地多時代モ其法ニ事ヨセテ  
取ハ惡之トナリ

一般ノ地ニ至テハ田地漸廣クナリ始テ井田ノ  
制法ヲ定六百三十畝長三百歩  
横二百歩ヲ一井トシテ九  
區トテ九ツニ分テ每區七十畝其真中ニ七十  
畝ヲ公田トシテ残五百六十畝ヲハ夫ニ与テ  
五百六十畝ハ七十畝充ハ人ノ分ナリ九ツ  
ノモノヲ八人ニテ作り一ツ公納云儀ナリ  
カ合公田ヲ作り立テ其穀有次第云セリ  
豊ヲ助法ト云公田ノ中ニテ都合十四畝引毎  
一畝七十五歩序舎分リ  
ニツニ分リタルナリ  
私田七十七畝ニシテ此中ヨリ七畝ノ穀ヲ納

一 一丈上田百畝中田二百畝下田三百畝定与シナリ上田ハ一年ニ  
休テ耕之中田ハ二年休之下田ハ三年休ニ程ニ三百畝与へ  
テ平均宛タリ積リ也田ノ善惡ヲカヘテ毎年同シ田ハ  
作ラス夫ノ歳二十歳ニナレハ百畝ノ田ヲ渡シ六十歳  
ナレハ田ヲ公儀へ上ルトナリ

日本ニテモ徃古ハ休メ作トテ隔年ニ耕作仕付タル田今ハ作物ヲカテ  
大豆胡テ其外何ニテモ作田地ニ費ヘタク休メ或ハ右類ノ時ウナイテ  
田ヲ轉テ作ル  
引カテ

一 五畝ノ宅トテ二畝半ハ公田ニアリ是ヲ序舎ト云テ春麦耕作  
スル時移居ルイヲリへ又二畝半ハ城下サテハ村ニアル是ヲ  
邑屋トテ農事仕廻テ城邑ニ歸リテ安居スル在所也



是モ山川行路ノ至分去ルノ内ニ入テ年貢ハナイワ是ヲ合五畝ノ  
宅ト云ナリニ畝半ト云屋敷ハ日本ノ九間四尺七寸ヲ四方ニ  
當屋敷ノマハリニ垣ヲメ其マハリニ桑麻ナトヲ植テ帛ヲ  
調シタメナリ此類モウヘスウツケタル所ハ耕代ニ布帛ヲ  
出サセ又工高モ何ノ家職モナクシテ居レハ丈祝トテ一丈出  
年貢ホト出サセ農人ノ田ヲ屋粟トテ三丈ノ年貢ヲ出サセ  
タルトナリ是ハ民イタツラニ身持セスヤクニ罰法ヲ定テ  
更ニ課役ニ取テハナイワ民ヲ隣ニ飢寒ニ及ハスタノノラ  
シヘナリ

一 条記ノ入用ノタメニ主田トテ郷官ヨリ下モノ者ニ定リタル  
禄曰ノ外ニ一人ニ田五十畝ツ、年貢ナシニキタヘシトナリ

惣領ノ外ニ第ヲ余丈トテ父ノ可讓田ナキ程ニ幾人ニテモ  
年十六歳ニナレハ公儀ヨリ田二十五畝与へ年三十歳ニ成テ  
妻室持ハ定リノ処ヲ百丈ニ足テヤルトナリ如此人多ク程  
又新田モ荒キ不足ナイソ

一周尺ハ日本ノ曲尺ニテ六寸六分六厘三分厘ノ二トツモリ周  
歩六尺四方日本ノ四尺四方トノ積リ

傳ニ曰其ノ曲ハ十寸ヲ尺トス所謂横黍尺也日本ノ曲尺サハ高尺ニ其五分ヲ  
尺ト云所謂用尺此ニ依テ高人十寸ヲ以周尺守ヲ陰ハ六寸二分余トナル

周ノ一畝八十歩四方ニメ一步ノ物百ナリ日本ノ法ニメ一畝七歩八厘余  
ニテ六間一尺四方也高ニメ一計貳外六合貳タ余ト積リ

日本ノ法一歩ヲ六尺五寸四方トシテ則一間四方ト云一畝ヲ三十歩トシ一及ヲ三百歩トシ十畝前  
トス甲ノ上中下平均一畝ヲ高一斗ト積リ一及ヲ高石トツモリテ



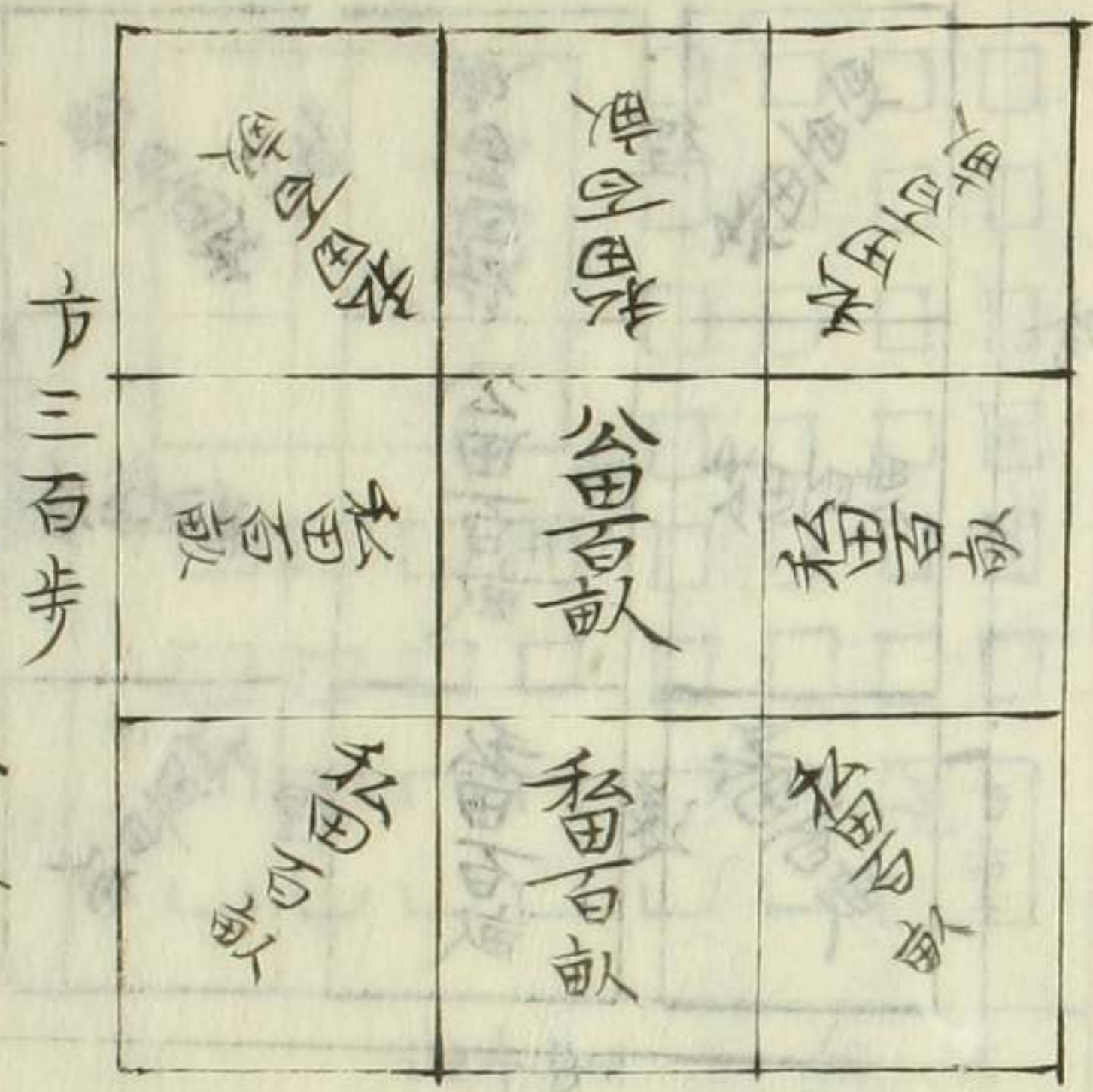
周ノ百畝ハ百歩四方別十二畝ニテ日本六十一間三尺五寸四方ナリ則田ノ  
 一所ニ及六畝令七歩余ニニテ高十二石六斗三升三合ニタト積タルナリ

一井田方三百歩ハ一里四方日本ノ法ニメ三町四間四尺四方ト積田メ拾  
 一町ニ及六畝二歩余高ニメ一百一十三石六斗九合四夕余ト積シ

一井ノ田ハ九百畝ニメ民家八丈每丈ニ百畝宛也真中百畝  
 公田トス經界井ノ字ノ如ク後世ニ号メ井田ト云縦横

圖ノ曰

周制井田圖

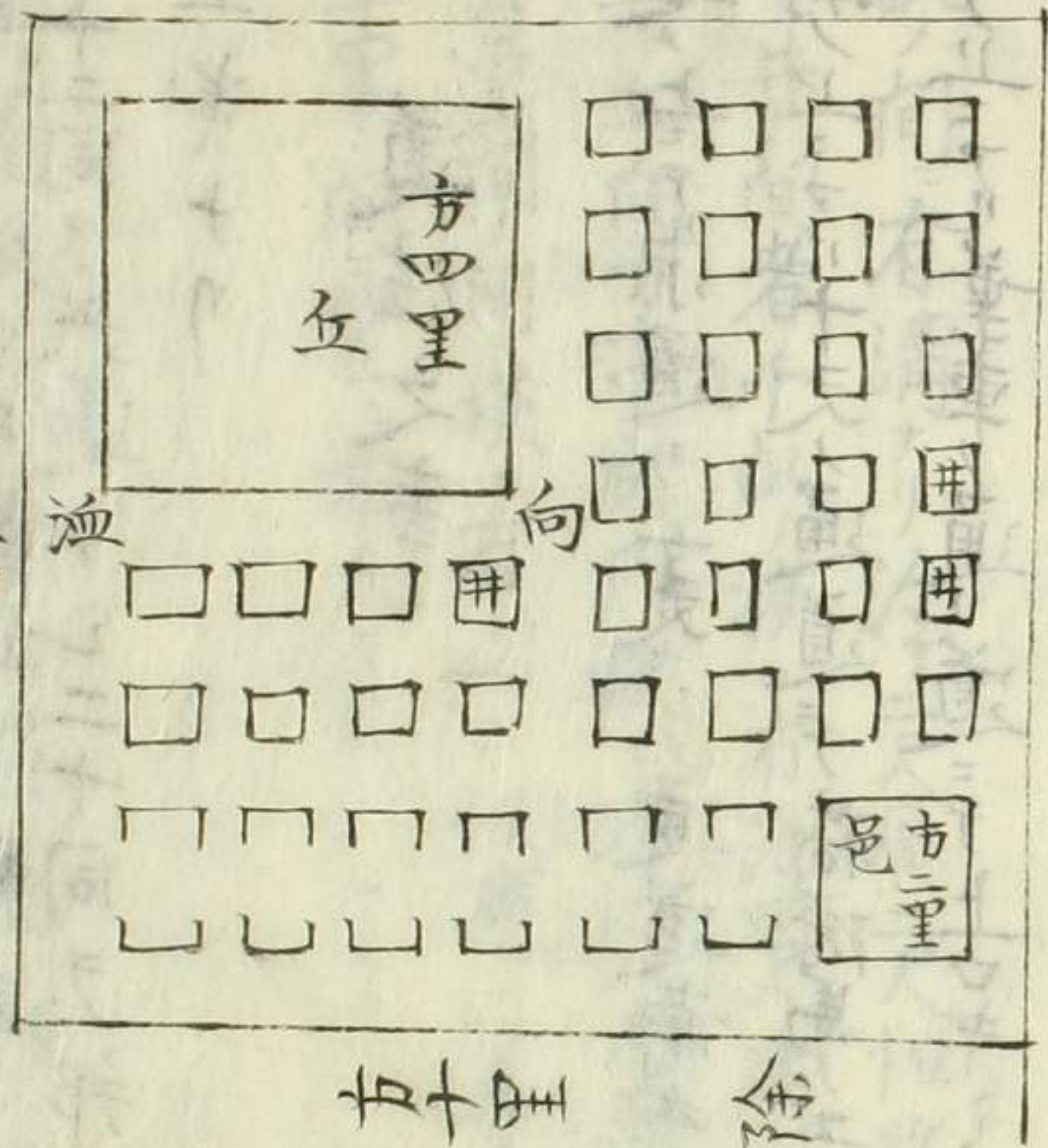


右八丈トテ作公田ハ八丈ニテ能手入ラ公納ニ成ル也  
 但八丈ハ八人ニテ作吏ナリ



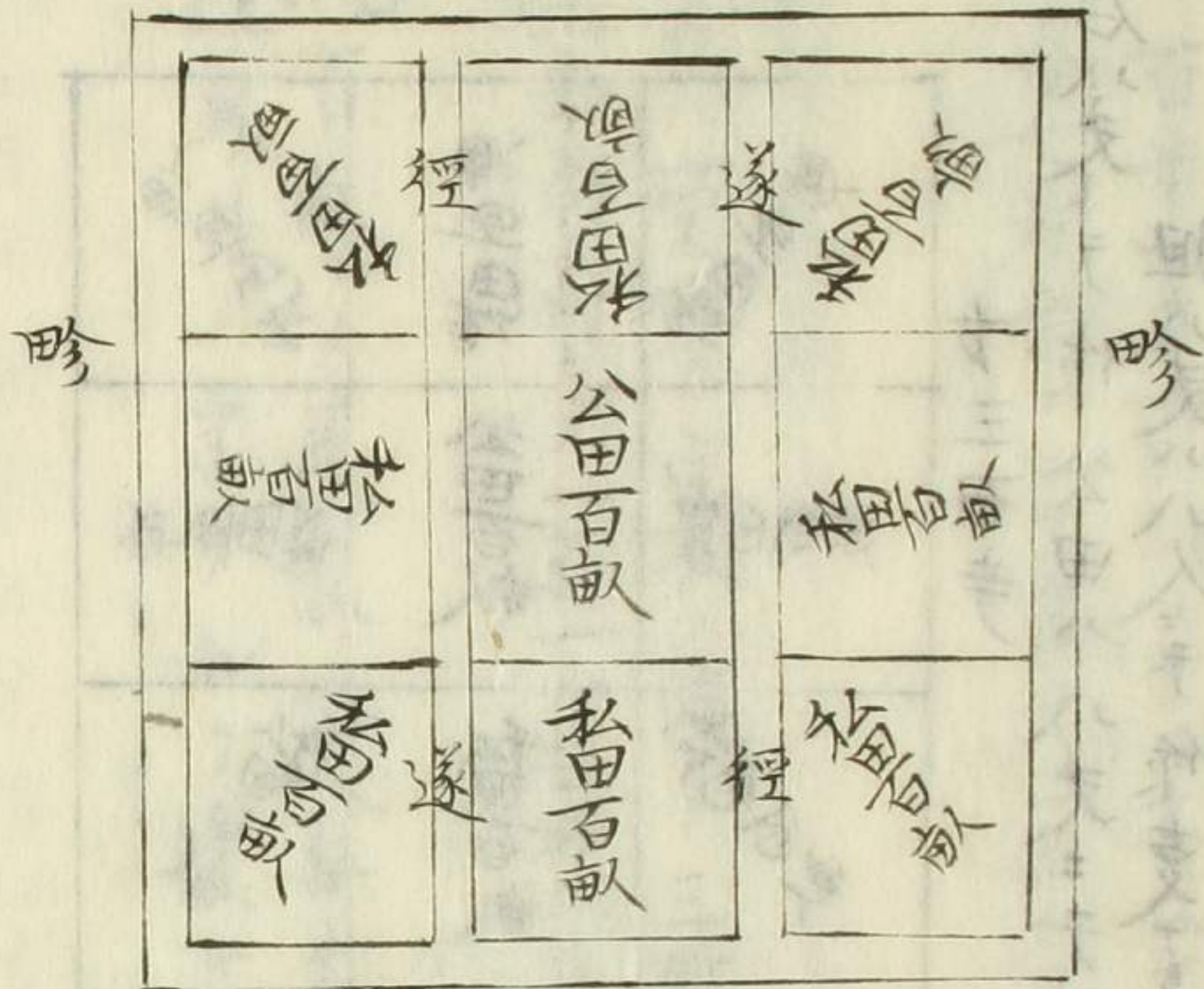
一此圖ニテ縣都同七段々四ヲカテ廻ニテ准知スヘシ

井邑丘四總圖



一井九丈九百畝也夫ノ間ニ有遂遂ノ上ニ徑井間有溝

右同徑遂畛有圖





一 郷遂都鄙ヲ造ル法九夫ヲ井トシ四井ヲ邑トシ四邑トシ四丘  
ヲ甸トシ縣トシ四縣ヲ郡トシ縣日本ノ四都ヲ同トシ郡トキ四國ヲ六  
郷トシ百也十二同ヲ六遂トシ二十同ヲ邦縣トシ三十六同ヲ邦都  
トシ則王畿ナリ

道法之事

徑ケイ 遂ノ上ニル小道ヲ一夫ノ通道衛手馬ノ通ル道カ  
畛チン 溝ノ上ニル十夫ノ通道ヲ荷附馬ノニ通ル道カ  
塗ツ 洫ノ上ニル車馬ノ通ル道ニテ上口キニチナルカ  
道 澮ノ上ニル大キ成道國々ヨリ大道へ出ル道ナルカ  
路 川ノ上ニル王畿ニ往還スル道ニテ日本ノ東海道ニ似タルカ

溝法之變

遂 一夫百畝ノ間ニ有溝ナリ深サ二尺廣二尺但堅溝ナリ  
溝 十丈井ト井ノ間者千畝ノ横ニ有洫四尺廣四尺  
洫 百夫ノ丘ト丘ノ間方十重成内縱ニ有洫八尺廣八尺  
澮 千夫方百里間ノ間ニ横ニ有深ニ二尺廣ニ二尋尺七尺  
川 万夫方千里ノ間ニ堅ニ有大キ成川ナリ

一 十夫田千畝其遂縦タル物士横タル物一其溝横タルモノ一凡水路  
兩端ハ卑ニ備へ兩端ハ障ニ備其中ハ皆卑澮ヲ兼ス是ハ一段ヲ  
以明之ノ其地皆相適ヲ卑障ヲ兼ル物也此ヲ用ルニ施ハ各其



地形ニシタカワテ徑畝遂溝ヲ造ルヘシ

一遂溝洫澮川ノ道亦徑畝塗道路ノ行路ハ一丈十丈百丈千丈万丈ノ間ニ有飯令ハ日本ノ東海道一國々ヨリ出ル道亦々々一郡ヨリ出ル道有溝モ小溝ヨリ小河へ出小河ヨリ大川流集カ如

一日本ニテ廣野ニ初テ新田開ハ水路ノ付様勾配ノ法又テ舎ノ地其地形ニ應シテ井田ノ法ヲモ考合スヘシ

一邑ハ方二里四井ニテ三千六百畝 民家三十二夫

日本ノ法メ  
六町九間一尺五寸四方ノ地ナリ  
田四十五町四反四畝土歩余  
高四百五十四石四斗三升余

一兵六方四里則四邑也十六井一万四千四百畝ナリ民家百二十八夫

日本ノ法メ  
十三町五間三尺四方ノ地  
四百八十一町七反七畝余  
高千八百七十七石七斗余  
戎馬一匹 甲士三人  
牛三頭 士卒十八人出ス  
牛八頭 卒ノ禄米ヲ附カ

一旬ハ方八里則四丘也六十四井五万七千六百畝民家五者十二夫

日本ノ法メ  
二十町十六間六尺四方  
田七百二十七町一反歩余  
高七千二百七十一石余  
兵車一乘  
戎馬四匹  
牛十三頭  
甲士三人  
士卒七十二人  
四馬ノ車トテ  
車一ツ馬四匹  
ツ、ニテ引カ



一甸六十四井方八里ナレ尺四方へ一里宛洩力加ル故十里四方ニ成シ洩ヲ集テ三十六井則三万二千四百畝ヲ合百井ニメ九万畝ニ成ツ通十万里ヲ日本ノ法メ三千町四十六間一尺四方也

一縣ハ則四甸ナリ

方十六里二百十六井  
二十三万四百畝 民家二千四十八夫

旱ノ法ノ

五十二町三十三間 五尺五寸四方  
西二千九百合八町四反歩余  
高二万九千令八十四石二斗余

縣ニ五十六井八方十六里ナレ尺甸ノ洩カ一方ハ三里ツ、

増程ニ三千六井宛四ツ百四十四井加ルニ依テ二十四方ニ

成リテ四百井則三十六万畝ノ地成ヲ 方ニ千里日本ノ一里ニ千

一都ハ則四縣ナリ

方三十二里  
九十二万二千六百畝  
一千二十四井 民家八千九百九十二夫

日本ノ法メ田一万千六百三十三町六反及余  
高十萬六千三百二十六石九斗余

都ハ方三十二里ナレ尺甸洩カ一方ニテ四里宛増程ニ五百六十六井加ル依テ四十里四方ニナリテ千六百井則百四十四万畝ノ地ニナルヲ

方四十里ノ日本ノ法メ三里十五町四間四方也

同ハ則四都也 方六十四里



四千九十六井 三百六十八万六千四百畝  
民家三万二千七百六十八丈

日本ノ法ニ

五里三十町十五間二尺五寸四方ナリ  
田四万六千五百三十四町四反三畝ナリ  
高四十六万五千三百四十四石三斗七升余

同、方六十四里ナレ尺旬ノ、漁カ一方ノ八里ツ、又縣ト  
都ト、漁ト、澮ト、集テ、兩方ニテ三十六里増程ニ五千  
九百四井加ルニ依方百里ニシテ一万井則九百方畝ノ地ニ  
ナレ、方百里ヲ日本ノ法ニシテ八里十九町四十一間三尺  
五寸四方成ル

一司馬法ニ百畝ヲ一夫トシ三夫ヲ受ル田ヲ屋トメ三屋ヲ

井トス井ナラ通トシ通ナラ成トス成十ヲ終トス終十  
同トス同ナラ封トシ封十ヲ終トシテ方千里也通井  
長十里横一里民家八十夫 九千畝

日本ノ法ノ

長三十町四十六間一尺  
横三十町四間四尺  
方九町四十二間五尺二寸余  
田百十三町六反二十八步余  
高千百三十三石九升余

一成 則也

方十里 百井 九万畝

民家八百丈

日本ノ法ニ

三十町四十六間一尺四方  
田千百三十六町令九畝十四步  
高一万千三百六十石九斗四升



一 紛別

長百里 千井 九十萬畝

民家八千丈

日本ノ法

八里十九町四十一間三尺寸  
横二十町四十二間二尺  
方二里二十九町十八間三尺寸  
四方千三百六十町九及四畝寸  
百一十一万三千六百九十四石四斗六升

一同

別十  
紛也

方百里

十萬井

九千萬畝

民家八十万丈

諸

候ノ采地兵車千乘ノ地

長八十五里十六町五十五間二尺寸

横八里十九町四十一間三尺寸

日本ノ法

方二二十七里一町五間余

田百三万六千令九十四町六及六畝余

百千三百三十六万令九百四十六石六斗一升

一 歩則

方十里

百萬井

九億畝

民家八百万丈

制軍賦

兵車万乘  
戎馬四万匹  
士卒七十五万人

牛十二頭  
甲士三万人

日本ノ法

八十五里十六町五間二尺四寸  
田千三百三十一万令九百四十六町六及六畝余  
百一億千三百六十六万令九千四百六十六石

一同八百公候ノ采地百乘ノ国也一國ヲ百分ニシテ御成遂  
十三成是ヲ國中十六分トシ貢法ヲ用一丈二百畝与テ九  
千二百十六丈ヨリ公田ナレニ其年ノ穀ヲ見立十分一ヲ年  
貢メ國ノ諸用ニス御遂ハ山林陰麓多ク井田カ思フ



様ニナラスフ十夫二千畝与ヘテ  
 畛ト云道ヲ付テ溝ト云  
 溝ヲ付テ百夫ニ万畝与テ除ト云道  
 洫ト云溝ヲ付テ段  
 々ニ組立テ又井田ノ成所ニ一井九百畝ヲ九夫ニ与テト  
 角其地形ニヨリテ徑畝ヲシタト見ヘタリサテ五人ツ  
 組合テ

郷圖

比 五家  
 比 二十五家  
 同 百家  
 族 五百家  
 黨 二千五百家  
 列 一万二千五百家  
 郷

遂圖

鄰 五家  
 里 二十五家  
 鄣 四里百家  
 鄣 五百家  
 縣 二千五百家  
 遂 一万一千五百家

軍圖

伍 五人  
 兩 二十五人  
 卒 五百人



五卒五百人  
 五旅二千五百人  
 五師一万二千五百人  
 軍師 儀

如此五家ヲ比トシ組上テ一万二千五百人ヲ一軍トシテ  
 常ニ五人宛言合念頃ニノ段々ニ組上テ日本ノ五人組ト  
 云ニ同ニ心ナリ

一亦二十ニ成カ縣二十八成カ都三十成  
一成ニハ 合テ八十四成ハ  
 郊外也是ヲ都鄙ノ地トノ助法ヲ用ヒ公私田八百八十  
 畝ノ穀ヲ十一ニ割一分ノ年貢ヲ取ル也是ヲ諸候大夫ノ

禄ニ与ルナリ軍役モ一井ニ八人宛出シ邑五甸トシテ  
 段々四倍シテ則一成也是ヨリ兵車一乘ニ戎馬四匹牛  
 十二頭甲士三人士卒七十二人出也千乘万乘モ此積リ也  
 サテ郊外ハ平地ニシテ徑叟カ思ヤウ十程ニ一井ノ内徑ト  
 云道遂ト云溝ヲ三夫毎ニ付テ是ヲ屋ト云三屋ヲ井ト  
 云夫ノ間ニ遂ナリ遂ノ上ニ徑アリ

一同八百乘ノ國一万井則九百万畝ノ地ナレ氏三千六百井ノ  
 分三百二十四万畝ハ山川沈竹城地邑屋居園圃行  
 路ヲ除キ六千四百井ノ分五百七十六万畝ヲ公私  
 田トシテ民家五万二千二百夫ナリ



田六千四百井

田七万二千七百十町五畝余  
高七十二万七千五百石五斗余

制軍賦

兵車百乘

戎馬四百匹

牛千二百頭

甲士三百人

士卒七千二百人

△七百十一井九ノ一公田六十四万畝也

日本法ノ 田八千令七十八町八反九畝余  
高八万令七百八十八石九斗余

十二万八千畝 序舎ノ地每井二十畝

日本法ノ 坪数四百八十四万七千三百三十七坪  
高六万四千六百三十一石二斗余

五十一万二千畝

日本法ノ 田六千四百六十三町一反一畝  
高六万四千六百三十一石二斗余

△五千六百八十八井九ノ一私田五百十二万畝

日本法ノ 田六万四千六百三十一町一反六畝余  
高六十四万六千三百一十一石六斗余

民家昔一千三百天也



一封ハ則十萬井ニテ九千萬畝則千乘ノ国ニテ法ハ同ノハ  
千倍ニ積リテヨシ

畿ハ百万井ニテ九億畝也則兵車万乘王畿ノ地也割合ノ  
法ハ同ノ百億封十倍ニ積テ公田實地五千一百二萬畝日本  
多六百四十六萬三千百十六石余ニ當ル私田八五萬一千二百万畝  
ニメ民家五百十二丈也日本高六千四百六十三萬一千六百六十石余  
當ルツモリナリ

一大國公候ノ國ハ方百里 一萬井ニテ 九百万畝

内 三千三百三十三井有余ニテ三百萬畝 山林京都  
附卷ノ方ニ三分引  
六年六百六拾六井有余ニテ六百万畝ニテ實田

日本高ニメ七十五萬七千三百九十六石四斗余

内

△六千二萬六千二百六畝有余 公田每井百畝

日本高ニメ八萬四千一百五十五石一斗余

内 十三萬三千三百三十三畝 序舎ニ引

五十三萬三千三百三十三畝 實ノ公田

日本高ニメ六萬七千二百四石一斗余

内

君祿三萬二千畝 二千八百八十人食ヘシ

日本高ニメ四萬二千二十九石五斗余 是ヨリ米迄百畝九人割

郷三人ニ九千六百畝 每郷二君ノ十分三百八十八人食フヘシ

日本高ニメ一千二百一十石八斗余 每郷四百三石九斗四分合メ



大夫五人二千畝

每大夫四分一七十三人食フヘシ

日本言フノ五百四石九斗三升余夫每二百石九斗八升六合三夕

上士九人四十畝

每上大夫半減三十六人食フヘシ

日本言フノ四百五十四石四斗余 每上士五石四斗九升三合三夕

中士九人三十畝

每中士半減二十八人食フヘシ

日本言フノ二百二十七石二斗余 每中士二石三斗四升六合五夕

下士九人二十畝

每下士半減九人食フヘシ

日本言フノ一百一十三石六斗余 每下士一石六斗一升三合三夕

君禄ヨリ以下賦田

日本言フノ五万一千九百畝

日本言フノ六千五百五十七石四斗余

残四十八万一千四百三十三畝

日本言フノ六万七百七十二石六斗余

是若国家ノ調度表祭客ホノ費ニ供フ餘則以凶荒不測ノ用ニ備フ

五百三十三万と百三十三畝有余 農夫私田

日本言フノ六十七万三千二百一十二石二斗余

一沃国伯ノ地ハ方七十里ニメ七七四千九百井則四百一十  
一万畝也君ハ十二ス卿ノ禄ハ三ニス大夫ヲ大夫ハ倍ニ上士ハ  
上士ハ倍ニ中士ハ下士ハ倍ニハイス下士ハ与庶人ノ有官者



同禄ヲ是以代其耕

律民ノ日次国ノ君ノ田二万四千町ニテ二千百六十人食  
フヘシ郷田ハ二千四百畝ニテ二百十六人食フヘシトナリ  
此割合ニメ法ハ大国ニ准シテ郷大夫上中下ノ士禄ヲ  
分ヘシ

一小國子男地方五十里ニメ五々二千五百井則二百三十五  
畝也君ハ十ニメ郷ノ禄ハ二ス大夫ハ倍ス士ニ上士ハ  
倍ニ中士ハ下士ニ倍ス下士ハ与ニ庶人有官同禄ヲ禄足  
以代其耕

徐氏ノ曰小國ノ君ノ田一万六千畝ニテ一千四百四十八人食  
フヘシ郷田ハ一千六百四ニテ一百四十四人食フヘシトナリ  
此割合ニテ法ハ大国ニ准シテ郷大夫上中下士ノ禄ヲ  
分ヘシ

一耕者之所獲一夫百畝百畝ノ糞上農夫ハ九人食フ上ノ  
次ハ八人ヲ食フ中ハ七人ヲ食フ中ノ次ハ六人ヲ食フ下ハ  
五人ヲ食フ庶人ノ有官者其禄是ヲ以差トス

一農夫一家五家五人ニメ貢法ノ税ヲ出ス若ラ考ルニ  
丈田百畝ノ粟十五石

但一畝ニ一斗五升ハ作り出ス積ニメ上孰ノ歳ハ一畝ニ三升



宛作リ増積リ百畝二十八石作出ス内一石八斗年貢ニ出ス残  
十六石二斗地内九石五斗諸用ニ引セ石二斗ノ賣代錢二貫  
百六十文アリ

内一石五斗 年貢

残十三石五斗 農夫作徳五人ヲ食ハ

内 九石五人ノ一年ノ食物一日一人五合ツ

四石五斗 賣リ粟

代錢一貫三百五十文

粟一キヲ  
錢三十文ニ代ル

内 三百文

春秋祭礼ニ入ル

一貫文

五人ノ衣類ニ入ル一人三百文ツ

メを費八百文入有る川にて四百五十文不足ニ又へり

日本ノ田一歩ニ畝一升二合トシテ一反ニ三石六斗有羊摺米  
ニメ一石八斗ノ十二月月ニ割一斗五升也是ヲ三十日ニ割一日  
五合食ニメ是ヲ一人扶持ト定五人扶持ナレハ一月七斗  
五升ニテ一ヶ年ニ九石ト見ヘタリ

此外フイ病煩死来ナト入用アレハ賣粟代不足成ル  
故迷惑スルノ其子細ハ農夫ノ耕作ヲ不精ニスルト  
困ヲ治ハ者ノ賣米ノ仕歎ニヨル程ニ民ニ農ヲ教ヘ賣  
米ニ加減シ國中融通シテ困窮セヌヤウニテシケル  
モノソノ米カ貴過シハ工高ノ万民カ迷惑スルヲ其能程ニス  
ル仕歎ハ其羊ノ稼熟ノ上中下ヲ見テ我賣米ヲ四ツニ分テ  
テ上熟ノ羊ハ一ツ分賣中熟ノ羊ハ二ツ分賣下熟ノ羊ハ三ツ  
分賣シテ又困ヲ飢饉スル時ハ年貢ノ取様作徳ニ加減シ



用捨ノ又救米モ相應ニヤル程ニ水損旱損風損ニモ民不  
散農夫モ困窮セストナリ季細井田圖考ニ記ス今日本ノ  
法ニ西公六民或ハ五公民ノトテ各別取箇強ケレ其代ニハ  
貢助ノニ依令ハ違フテ極リタル軍役ヲ積勤<sup>ル</sup>支ナシ是ヲ  
以和漢時俗ノ宜ニ叶フ法ヲ考合スヘシ允此書ハ地方便蒙ノ  
タノ其固陋ヲ忘テ聞觸見觸ニタル支ヲ班輯ス仍其錯  
誤多カラシ識者神之後編ヲ俟而已

若此書初終共ニ至極重スヘシ允根神書延喜式出ル勤  
農國本録下卷有寫之

但日本ノ法ニ直六尺五寸ヲ以積ル允根三百六十步一及トス  
故ニ六尺五寸トセシヤ算ニ不合後ノ人可記



